

## 在庫の削減と適正な管理

**Q.** 資金繰り改善のための在庫削減にはどのような方法があるか？

**要旨** 在庫は眠っている資金（＝現預金）だということを認識し、適切に管理する必要があります。

### 解説

#### 1. 在庫削減の必要性

在庫金額は、貸借対照表及び損益計算書には明記されていますが、資金繰り表には表記されません。しかし過剰な在庫を保有しているということは、在庫購入資金が回収されない状態になっており、資金繰りを圧迫することになります。

自社の適正在庫を把握し、過剰な在庫を保有しないように管理するとともに、過剰在庫を削減することは、資金繰りの改善につながります。

#### 2. 不良在庫の処分

在庫についての仕入代金は、既に支払っています。これは不良在庫についても同様です。これを資金化できれば、資金繰りを改善することが可能になります。

不良在庫は、長期滞留等の理由で価値が下落していることが多いでしょうが、売れてしまえば資金化できます。損益計算書上は赤字となるでしょうが、売れない在庫を保有しておくよりも現預金は増えることになります。

また、過剰な在庫を削減することによって、倉庫代や管理コスト等の費用も削減できる場合があります。

不良在庫の特性を十分に理解して、資金化できるのあれば、積極的に売却すべきです。

もちろん、今後不良在庫を発生させない適正在庫の把握は、さらに重要なテーマです。

# 回転期間分析等で適正な在庫管理

## 〈ご提案のポイント〉

- ・適正な在庫を把握することで、資金繰りを安定させる効果があります。
- ・棚卸資産の回転日数を理解することは、資金繰り表を作成する際にも役に立ちます。
- ・不良在庫を処分すると損益は悪化しますが、資金化されることで資金繰りの改善につながります。

## 1. 適正な在庫を把握

過剰在庫は資金繰り表に現れませんが、資金繰りに大きく影響します。自社の適正在庫を把握し、過剰な在庫を保有しないように管理することが重要です。

在庫の金額は、個数×単価で表されます。

同じ10万円でも、「100個×1,000円」と「500個×200円」では、内容は全く別物です。100個の商品の在庫は適正水準でも、500個の商品の在庫は少なすぎるということもあるでしょう。反対に、100個の商品は多すぎる、500個の商品は適正だという判断もあるかもしれません。会社にあった適正在庫数を商品ごとに把握しましょう。

## 2. 棚卸資産の回転

棚卸資産の回転日数は、在庫となってからどのくらいの期間で売上になるかを示す値です。この日数が短ければ短いほど効率よく収益を上げている指標といえます。

これに加えて、売上債権回転日数を把握すれば、在庫がどのくらいの期間で現預金化されるのか把握することが可能となります。過去の決算データ等を利用して、どのような変化をしているのか比較することは重要です。

棚卸資産回転日数 = 在庫金額 / 1日当たりの売上高

売上債権回転日数 = 売上債権 / 1日当たりの売上高

自社の販売能力や市場の動向を考えて、仕入発注を行える環境を整えることが重要です。

帳簿類では商品の受払帳、その他、システム的には、棚卸在庫が把握できる販管システムを活用しましょう。

## 3. 原価割れ在庫の処分

不良在庫を処分すると、損益上赤字が発生することもあるでしょう。たとえ赤字が発生しても、売れる時に売ってしまい資金化したほうが、資金繰りにもよい影響を与えます。その月、その期に赤字を出してしまう可能性はありますが、金融機関等に前もって相談しておけば、不良資産処理の結果として、前向きな評価に値します。